

大館のむがしっこ

文・河田竹治さん

鳳凰山の猫の話

<10>



絵・田村純一さん

「大文字焼」で知られる鳳凰山には、その昔寺屋敷があったというお寺には和尚さんと一匹の猫が住んでいた……。

一人の木綿屋が、そのお寺に入りしていた。名をさへいといつた。

「和尚さん、和尚さん。またこちらに商に來たので泊めてたんせ」

「やあ、さへい、よく來たな。ゆつくりしていつてや。何のこ馳走もないけど、油揚げでも作るから食べてけれ」

さへいは、和尚さんの作った油揚げを腹いっぱいこ馳走になった。しかし、たいそうもてなしを受けたさへいだったが、何かひつか

る。和尚さんがいつもの和尚さんじゃないような気がしたのだ。

その夜、一度は床に就いたさへいだったが、再び起き上がると寺の様子をうかがった。すると、本堂の方からお経をあげる声やら、ガチャガチャ騒ぐ音がする。不思議に思ったさへいは、本堂の方へ忍び足で近寄った。

「あ」

さへいはびつくりした。そこには五匹の猫がいて大騒ぎしていたのだ……。

翌朝、目を醒ましたさへいは、「和尚さん、お早いなし、ところで、木綿の方もさっぱり売れないし、今日はこれでいとまさせて

もらうんし」と言った。

しかし和尚さんは聞こえないのか「油屋の十衛工門のばあさんが亡くなって行かねばならないからさへい、留守番してけれ」と言った。さへいは仕方なく従った。

夕方、和尚さんが帰って來た。

「これで歸るし」

「待て、さへい。お前に良い物をあげる。そのかわり誰さも言っていないはならねえ」

和尚さんは、大金の入ったガマ口をさへいにやった。さへいは和尚さんに世話になったお礼を言つて、寺をあとにした。

歸る途中、油屋十衛工門の家に寄った。

「こんな立派なものをもたらしたとガマ口を十衛工門に見せた」

「これは家のばあさんのガマ口だ。棺桶の中に入れておいたのに、和尚さんの仕業に違いない」

さへいは驚いて、そのガマ口を十衛工門に返した。そうして、今來た道をひき返して行つた。

橋のところまで來たさへいは、きれいなお地藏様を見つけた。

「ここにお地藏様はなかったはずだが」

近づいて見ると、地藏様が猫なのかわからないものだった。突然お地藏様が猫になってさへいの手を引張った。そして、あつという間に何匹もの猫がさへいを襲った。「なして、しゃべるなと言つたのにしゃべつた。ガマ口もなして置いてきたんだ」

猫たちは約束を破つたさへいを殺してしまったということである。

(話者・阿部モトさん)

家族で収穫の喜びを 市民菜園の利用者募集

市民菜園は、市民の皆さんの余暇を利用して、土に親しみながら家族みんなのコミュニケーションに役立てていたが、農業に対する理解を深めてもらおうと、昭和56年から行われているものです。今年も次の通り利用者を募集します。ご家族で楽しい野菜づくり、花づくりをしてみませんか。

◆募集菜園

- ①南ヶ丘菜園……59区画
(萩野台県営住宅北側ほか)
- ②有浦菜園……84区画
(農協有浦給油スタンド南側)

◆応募資格

- ・農耕地を持たない市民
- ・家庭内に余暇時間(労働力)



が十分にあり、入園後、菜園を適正に活用できる方

◆入園料 無 料

◆受 付

2月27日(月)から受け付けます。ただし、予定区画数になり次第、締め切ります。

◆申 込

市役所農林課農業経営係にある申込書に、所定の事項を記入してお申し込みください。

☎49-3111 内線294

市民の声

〈問〉除雪、いつも苦勞さまで。ところで、除雪車が行った後のことですが、信号機のある十字路の横断歩道に、雪が山積みされていることがあり、渡るときに大変不便を感じることがあります。どうか、横断歩道の雪についても取り除いてくれるよう望みます。

(一市民)

〈答〉ご要望の件は、国・県道及び市道等の取付部分の横断歩道のことと思います。どうしても機械による除雪のため、車道除雪で雪

の押し上げができて歩道を防ぎ、歩行者の通行を困難にしているのが現状です。国・県道については建設省並びに北秋田土木事務所との取り決めがありますので、それぞれの関係機関に要望いたしてまいります。

なお、市道等につきましては、できるだけ市民の皆様にご迷惑をおかけしないように、除排雪作業を実施しています。

また、除雪によって、お宅の付近の取付道部分に押し上げられた雪は、地元住民の皆さんのご協力でご排雪してくださるよう、お願いする次第です。

(市役所土木課)

老壮大学生を募集

募集人員——若干名 応募資格——学習意欲のある大正13年4月1日までに生まれた方
締切——3月15日 申込先——中央公民館(☎43-4369)